

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101489		
法人名	社会福祉法人 啓正会		
事業所名	グループホーム モン・サン井手園 モン・サン I (2階)		
所在地	長崎県西彼杵郡時津町元村郷897番		
自己評価作成日	平成25年3月1日	評価結果市町村受理日	平成25年4月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームが地域と共に繋がりが続くよう、積極的に地域の活動に取り組んでいます。ホーム生活も毎日が充実して送れるように、健康面や食事・楽しみごとなど、一人ひとり配慮しております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル7階		
訪問調査日	平成25年3月19日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道沿いの日当たりのよい少し高台に位置している。7階建ての建物にデイサービスと併設しているホームである。職員は、理念「優しく、楽しく、元気よく」が支援の全ての根幹にあり、介護計画は職員に分かりやすく、日々の支援の中で利用者の笑顔に繋がるものとなっている。職員の仕草や言葉遣いも優しく、穏やかで明るくゆったりとしたホームの雰囲気繋がっている。介護計画は利用者が安心して暮らせるよう、支援内容が利用者本位である。地域との交流についてはイベント行事だけでなく、自治会と防災の訓練や防犯の協力体制など地域に根ざした活動を行っている。運営推進会議を行うことにより一層繋がりが強くなっている。職員やホームの雰囲気の明るさは、利用者が安らげる穏やかな居場所になっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	外部からでも分かりやすい言葉の事業所理念を掲げ、働く方たちも毎日の業務の中に活かしています。	各ユニットの共通理念である「優しく、楽しく、元氣よく」を事業所内に掲示し、職員は利用者に対して優しい声掛けや明るい接遇を心掛け、理念を実践している。また、新人には入社3ヶ月は管理者が認知症の基本的知識や対応等を教育するほか、月1回の勉強会等で周知徹底を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者と地域との繋がりとして、敬老会参加、文化祭への作品出展、他に自治会での防災学習、お祭りへの参加、ボランティア慰問での交流など、更なる交流に努めています。	自治会や町内会に加入し、敬老会や夏祭りに参加するほか、定期的にコーラスグループの訪問や中学生の職場体験等を受け入れている。公民館で行われた防災訓練に参加したり、防犯訓練の一環として行われる夜間警備に管理者が参加するなど、積極的に地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の自治会へのホーム紹介、運営推進会議での役場への認知症の方に対する理解などをお話したり、ご意見を伺ったりして活かす努力をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での報告を基に、ご意見に対する検討や話し合いを行い、改善や実現が出来るように努力をしています。	運営推進会議は年6回、自治会長や地域包括センター等のほか、利用者や家族も参加して実施している。家族等が差し入れた飴類を利用者個人で管理していたが、誤嚥防止や衛生面で注意が必要なため、家族の同意を得て職員が管理するよう改めた事例がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場や地域包括支援センターとは、頻繁に連絡や相談を行っています。役場からもホームの空室状況・見学のお問い合わせがあります。	時津町連絡協議会に管理者や職員が参加するほか、介護認定更新時や医療費控除の間合せ等で管理者が日頃から役場に出向いている。利用者に必要な申請、切替が必要な場合は、利用者や家族と相談のうえ役場に申請し、役場からも電話や通知等で情報が伝達されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々のケアの中で、身体拘束にあたらないうか振り返り、拘束を行わないケアに取り組み、運営者及び、全ての職員がミーティング等で話し合い、施錠は防犯の為、夜間を除いては出入りが自由に出来るようにしている。	玄関の施錠は夜間のみ行われ日中は自由に出入りが出来る。昨年12月に事業所内に「身体拘束防止委員会」を立ち上げ、月に1回勉強会を行っている。但し新人職員に向けた身体拘束についての知識習得の機会が不十分である。	新人に対する身体拘束の教育は言葉による拘束も含め勉強会等を定期的に開催するなど知識を深め、質の高いサービスに繋がることを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	その研修会などに参加する事により、虐待について学び、日々のケアの中で見過ごすことがないよう注意を払い、虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の方に後見人制度を利用されている方がいますが、その制度について熟知しておらず、今後は制度について学び、必要性を話し合い、活用できるように支援していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問点・要望などを伺って、理解と納得を頂く為の十分な説明をして、不安感が生じないように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部者へ表せる機会を設け、運営に反映させる為、利用者家族などの意思・思い・要望などを聞き、十分な話し合いを行って、ケアの向上に努めています。	玄関に意見箱を設置し、電話や家族の訪問時などに出された意見・苦情はその都度記録し対応等を検討後、口頭又は書面で家族に報告している。家族から枕が北枕なので位置を変えて欲しいと要望が出た際はすぐにベッドの向きを変えるなど、可能な限り迅速に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人的に話を聞く機会を作り、ミーティングや会議を行って、運営に関する意見や提案をしてもらっています。	ユニット会議や夕方の報告会にて職員は意見や提案を管理者やケアマネージャーに伝えている。年1度個人面談も行われている。職員はスキルアップのための研修参加希望や介護低層モーターベッドや車椅子など介護器具の購入提案を実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自がやりがいや向上心を持って働くことができる様に、職員一人ひとりの努力・実力を把握して、職場環境作り・条件に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自の得意分野が活かせるように、本人の意欲や個々の能力が発揮できるよう取り組み、法人内の研修を受ける機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアに対する意見を交換し合い、研修会などに参加・交流し、サービスの質の向上に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様やご家族を交えて意見や要望を聞くよう、ホーム見学の機会を作っており、安心して利用して頂ける関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が持たれている不安や要望を聞く機会を作り、入居に関する相談にいつでも応じられるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談や見学の機会を作り、本人様・ご家族が必要・希望されていることを聞き、本人様に合ったサービスを利用できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事・できない事を把握し、趣味や興味を通じ、共に日々の暮らしを過ごし支えあえる関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と一緒に、喜怒哀楽を共有し、入居者の日常生活状況を定期的に報告・説明するとともに、本人を支えていく関係づくりに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会や、気軽に外出できるように本人様・ご家族の情報をもとに支援しています。	家族や友人の面会が多くある。利用者が寂しい様子の時は、家族へ訪問依頼し関係継続を支援している。馴染みの場所へ職員が外出支援しており、初詣は利用者の希望の神社に参拝に行っている。墓参りや法事など家族との外出や外泊も行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立することがないように、利用者個々の状態、趣味・興味ごとなどを把握し、交流の場を作り、関わり支え合えるよう努め、状態に応じ職員が会話の橋渡しをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	気軽に相談・訪問して頂けるよう、いつでも気兼ねなく、より良い関係が続いていけるように努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴・生活状況を把握し、希望や意向を第一に考え、出来る事を見出し一人ひとり思いや暮らしに活かせるよう、支援しています。	職員はレクリエーションや個別に支援を行うときに、利用者と1対1で話し合いを汲み上げるようにしている。職員だけでは困難な場合は、ケアマネージャーがゆっくりと利用者と接し対応している。難聴の利用者には、声かけカードを作成し、思いや意向を聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者・ご家族からの情報を基に、日々の暮らしを通じて、一人ひとりに合った馴染みの暮らし方・生活環境の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間での毎日のミーティング・情報交換を行い、日々の身体状態・生活状況を個々の記録に残し、情報把握に努め、共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーが中心となり、入居者・ご家族の希望を基に、職員間でアイデアや意見を出し合い、介護計画に反映し作成しています。	短期3ヶ月長期6ヶ月の支援目標を作成している。家族や利用者の思いを常に聞き取り記録しており、更新時に取り入れ家族へ説明し同意を得て実践している。毎月カンファレンスやモニタリングで職員の意見を汲み上げている。職員はケアプランを基に記録を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間での情報の共有を図るため、日々の様子やケアの実施状況を個人カルテに記録し、変化や気づきがあれば直ぐに話し合い、計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様やご家族の状況・要望に応じ、ユニットでの入浴介助が困難な方には、リフト浴を利用して頂くなどの支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム生活が豊かで穏やかに安心して暮らすことが出来る様に、本人様の意向を踏まえ、見学などのホーム訪問・交流依頼など、周辺地域との関わり合いを大切にしながら、支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各入居者が定期的な医療を受けられるよう、受診での付き添い、送迎のサービス提供、体調に変化があれば医師へ報告・相談ができる協力病院のバックアップもあり、いつでも適切な医療を受けられるように支援しています。	ホーム医療機関との連携は、利用開始時に説明を行い同意を得ており、通院介助は職員が行っている。家族の希望する専門医への受診も行われている。受診内容は家族へ報告されている。夜間や緊急時の協力体制も構築し、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	適切な看護や受診を受けられるよう、看護師が利用者の毎日の健康状態に気を配り、必要があれば病院の医師の症状・状態の報告を行い、指示を仰ぎ支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、できるだけ早期に治療・退院に向けて、その方の症状に応じて医療職と情報交換を行い、話し合いや相談・協力を努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で事業所で出来る事を家族へ説明し、主治医よりご家族を交えての病状説明を行い、全員で情報を共有し、チームで支援に取り組んでいます。	ホームの考える看取り支援について、利用開始時に説明している。利用者の状況に応じ、医師から家族への説明、及び事業所を含めて話し合いを行っている。ただし、ホームの看取りに関する指針があるが、明確ではない。	ホームでは医療行為の対応ができないため、看取りは行わないことを口頭で説明している。書面内容で明確にし、法人連携体制を明記するなど、検討することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急事態に対応できるように、急変や事故発生時の対応マニュアルを作成しており、それを基に職員間で繰り返し、いざという時に備え学習を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回行っている昼夜想定での避難訓練の他に、内部研修での災害に対する対応、自治会での防災学習への参加したり、災害に対する意識を高めています。	年2回実施し、内1回は消防署立会いの下、自治会役員の参加で開催している。夜間想定は自主訓練で行い、夜勤に入る前には消火設備の取り扱いや避難経路を確認している。自然災害時の備蓄は厨房にあり、自動発電機を備えている。但し、消防署立会い時の指導の記録がない。	消防署指導の記録を取り、職員で共有すると共に有効活用が望まれる。また、夜勤専門職員を含めた全職員が自主訓練の回数を重ね、装置の手順や避難経路の周知徹底を図られる事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	これまで生活されたきた環境を知り、人格を尊重し、その人らしく生活できるよう、誇りやプライバシーを損ねない対応に努めています。	職員は守秘義務の誓約書を毎年提出し、個人情報保護を意識付けている。排泄誘導の声かけや自室での排便後は窓を開け、匂いが廊下へ出ないようにするなど恥辱心に配慮した支援に努めている。個人情報の保管場所は目に付かないよう工夫し、写真の掲載の同意書を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様が決定したり、納得ができるよう、入居者一人ひとりに合わせ、思いや希望を表せることができるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望どうりの生活ができるように、入居者一人ひとりの生活リズムを大切にし、本人様の気持ちを尊重し、個別的な支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様の希望に添えるように、入居者が望まれるオシャレ・身だしなみができるよう、支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みのメニューを献立に活かし、誕生会のケーキ作りを一緒に行ったり、その日の体調や気分に応じて食事の準備や後片付けを手伝って頂いている。	献立は、職員が利用者の希望を取り入れて作り栄養士が確認し、ユニット毎で調理している。形状や嗜好を利用者に合わせ、季節を感じる旬の食材や行事食を提供している。また、誕生日のケーキ作りや食事の準備、後片付けの手伝いを利用者と一緒に行うなど食事を楽しむ支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全職員が把握できるよう、栄養バランス・水分摂取量が分かるよう、記録と支援を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアに気を配り、入居者一人ひとりに清潔保持の大切さを説明しており、ご自分で行って頂くよう声掛けして、出来ない方には本人様の力に応じた口腔ケアを支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体状況・生活状況に合わせ、トイレへの声掛け・誘導をし、排泄パターンの把握に努め、出来る限りオムツの使用を減らせるよう努めています。	職員は排泄チェック表や利用者の表情や動作などを基に、利用者に合わせて排泄支援を行っている。24時間おむつを使用していた利用者が日中はおむつをはずしてリハビリパンツで過ごせるよう支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりに合わせた食事の工夫、身体に負担が掛からない軽度の運動を勧め、生活と状態を知り、主治医による服薬の支援や便秘の予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	いつでも気分良く入浴できるよう、その日の体調を考慮し、職員の都合や強制がないよう、各自に合った入浴支援を行っています。	入浴は週3回、曜日を決めているが、拒否があれば日をずらしたり清拭で対応している。車イスの利用者はリフト浴で安全に入浴が出来る。好みの石鹸を使ったり、入浴剤、菖蒲湯やみかん湯など季節を楽しめるような工夫を行っている。希望があれば同性介助を行うなど入浴を楽しむ支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各自の状態に合わせ、休憩や横になるのを促すか、休息支援を行い、夜は安眠できるよう、日中の活動を充実させています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全てが薬の内容を把握できるよう、各自の薬の説明書きがあり、薬の管理を行い、服薬前には本人様のものか名前を読み上げて、服薬の支援を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の把握に努め、今までに頑張ってきた事、自慢ができる話を共に話し合い、楽しみや気分転換ができるよう支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その方の要望や内容に応じて、お出掛けの支援を行ったり、ご家族と一緒にピクニックという形で、春と秋にちょっとした遠出を楽しんで頂いたりしています。	利用者のその日の希望を取り入れ、買い物やドライブなど外出している。車イスの利用者も日光浴や季節の空気を感じて貰うために、外に出る支援をしている。家族も参加する外出しての行事や家族の支援で孫の結婚式に出席するなど外出支援に努めている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が行える方には、自身で管理して頂き難しい場合には、ご家族へお任せしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や郵便のやり取りができるよう、柔軟に対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間には、違和感があるような物は取り除き、色調や室温調整も適度に行い、快適に過ごせるよう努力しています。	毎朝職員が掃除し、空調や換気の調整を行っている。台所と居間が繋がっているため、家庭的な調理の音や食材の匂いが直接感じられる。各ユニットの玄関やリビングには、それぞれに工夫した季節の花や飾りつけがあり、季節感を演出しており利用者の居心地のいい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りでくつろげる居室、皆で楽しく過ごせるリビングや食堂があり、気分に合わせて過ごすことが出来る居場所の工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様が希望・納得される気に入った部屋作りを支援するため、本人様・ご家族と相談して今まで使用されていた使い慣れたものや、好みを活かしています。	テレビや仏壇、家族の写真等利用者の馴染みの品が持ち込まれている。車椅子で自由に動ける十分なスペースがある。ホームで作った作品や写真が飾られ、ベッドの位置は利用者に合わせて配置している。職員が掃除や換気を行い、居心地良い居室作りの工夫を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室・廊下・居室に手すりを設け、身体状態に合わせた工夫をし、できる事・できない事を全職員が把握し、少しでもその方が役に立てたと思えるような自立の支援を提供させて頂いています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101489		
法人名	社会福祉法人 啓正会		
事業所名	グループホーム モン・サン井手園 モン・サンⅡ(3階)		
所在地	長崎県西彼杵郡時津町元村郷897番		
自己評価作成日	平成25年3月1日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームが地域と共に繋がりが続くよう、積極的に地域の活動に取り組んでいます。ホーム生活も毎日が充実して送れるように、健康面や食事・楽しみごとなど、一人ひとり配慮しております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル7階		
訪問調査日			

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	外部からでも分かりやすい言葉の事業所理念を掲げ、働く方たちも毎日の業務の中に活かしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者と地域との繋がりとして、敬老会参加、文化祭への作品出展、他に自治会での防災学習、お祭りへの参加、ボランティア慰問での交流など、更なる交流に努めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の自治会へのホーム紹介、運営推進会議での役場への認知症の方に対する理解などをお話したり、ご意見を伺ったりして活かす努力をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での報告を基に、ご意見に対する検討や話し合いを行い、改善や実現が出来るように努力をしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場や地域包括支援センターとは、頻繁に連絡や相談を行っています。役場からもホームの空室状況・見学のお問い合わせがあります。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄關の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昼・夜を通して入居者の行動から目を離さないように注意を行い、危険もないように努力し、身体拘束をしなくて良いようにしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会の参加や、ケア会議に参加して問題などを話して虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会やケア会議などで話し合い、機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書(パンフレット等)を用いて説明を行い、利用者や家族の質問にも十分な説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営会議を行い、利用者・家族・職員の要望を反映されるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを毎日行っており、管理者に意見や提案ができるようになっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	そのように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員教育を円滑に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	その努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様が困っていることや、不安に思っていることを傾聴して、安心感を与えるような助言を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族に困っている事、不安に思っている事に傾聴して、できるだけ要望に答えられるよう、努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケア会議等を用いて、本人様やご家族に意見を聞いてサービスに活かせるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ生活の中で、洗濯物を一緒に畳んだり、テレビを見たりして一緒に生活をしていくという気持ちで取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と連絡や相談を行いながら、本人様にとってより良い環境になるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の方がいつでも面会に来たり、外出ができるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホームでのピクニック・ドライブ・レクリエーション等を通して、皆と仲良く生活が出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人様・ご家族からの相談やご意見は、快く応じ、対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の希望を出来るだけ取り入れるよう、努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に協力して頂き、趣味や以前の仕事などを聞いて、本人様に合わせたケアを心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事・出来ない事の把握に努め、その力に合ったケアを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議を行い、チームの意見や本人様・ご家族の意見を聞いて、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個人記録として時間時間に細かく日々の様子をケアプランに沿って記録しており、気付いた事を話し合い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	チームで話し合い、出来る限り本人様やご家族のニーズに対応できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア慰問の協力をして下さる方々もおられ、入居者の皆様も大変喜んでおられます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は週に一回受けている。それ以外にも、体調が悪い時や眼科や歯科・耳鼻科等の専門病院も受診ができるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルチェックを毎日行い、異常がある時や、顔色が悪い時、食欲がない時などは看護師に相談をして指示に従っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、食事内容や最終排泄日などの入院前の情報を細かく記入した連絡用紙を病院へ預けて情報を届けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	症状の悪化と共に、ご家族へ相談を行い、本人様の希望を出来るだけ取り入れてチームで支援が出来るように取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修と職員間で反復実践を行いながら、とっさの対応の実践力を身につける努力をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回行っている昼夜想定での避難訓練の他に、内部研修での災害に対する対応、自治会での防災学習への参加したり、災害に対する意識を高めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今までの生活習慣があり、考えがあるため、本人様の気持ちを一番に考えた対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が一方向的に押し付けたりせず、ひとつひとつ本人様に尋ねながらケアを行う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、急がせたりする事がないケアを行う。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の方は化粧品を本人様につけて頂いたり、男性の方はヒゲそりのお手伝い、毎日の生活が楽しめるようにお手伝いしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在はお手伝いや片付けが難しいので出来ていないが、食事の嗜好は伺って、献立作りに活かしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年齢や体格を考えた摂取量を提供しており、栄養面も栄養士の指導のもとに、支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きが自分で出来る方は行って頂き、難しい方は介助を行っている。歯科医の口腔ケア指導も活かしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導を行っている方もいるが、当ユニットでは現在、介護度が高く、オムツを使用されておられる方が多いです。昼間はトイレ誘導、夜はオムツのパターンになっています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に野菜、オヤツに果物を多く取り入れたり、水分量を多めに摂取、軽い体操をしたりしながら、内臓の働きを活発になるよう、便秘防止を日々考えております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯や、曜日はなかなか本人様の希望とうりにはいきませんが、ゆっくりとお風呂を楽しんで頂くよう努力しております。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝をされる方、されない方、夜に眠る時間も本人様の眠りたい時に寝ていただくよう、支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効用については、週に一度、受診時に医師に相談、またホームの看護師にも相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来るだけ食べたいこと、楽しみたいことを実現できる様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員やご家族に協力してもらいながら、お出掛け支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様やご家族、職員が付き添って所持金を確認しながら、お買い物が実現できるよう、支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、いつでも。手紙は宛先を確認してポストに出しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居住空間は常に掃除を行い、清潔を心掛けている。浴室・トイレ・居室には分かりやすく表示をしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全てお部屋は個室であり、独りになれるスペースがある。昼間はホールで他の皆様と過ごせるように支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	布団やソファ、テーブル等、自宅で使われていたものを持ち込まれて使用して頂いています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には洗面台、収納に困らないクローゼット、すぐに間に合うトイレ、個々の生活空間が保たれているように工夫しています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101489		
法人名	社会福祉法人 啓正会		
事業所名	グループホーム モン・サン井手園 モン・サンIV(5階)		
所在地	長崎県西彼杵郡時津町元村郷897番		
自己評価作成日	平成25年3月1日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームが地域と共に繋がりが続けるよう、積極的に地域の活動に取り組んでいます。ホーム生活も毎日が充実して送れるように、健康面や食事・楽しみごとなど、一人ひとり配慮をしております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル7階		
訪問調査日			

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	外部からでも分かりやすい言葉の事業所理念を掲げ、働く方たちも毎日の業務の中に活かしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者と地域との繋がりとして、敬老会参加、文化祭への作品出展、他に自治会での防災学習、お祭りへの参加、ボランティア慰問での交流など、更なる交流に努めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の自治会へのホーム紹介、運営推進会議での役場への認知症の方に対する理解などをお話したり、ご意見を伺ったりして活かす努力をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での報告を基に、ご意見に対する検討や話し合いを行い、改善や実現が出来るように努力をしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場や地域包括支援センターとは、頻繁に連絡や相談を行っています。役場からもホームの空室状況・見学のお問い合わせがあります。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を立ち上げており、その研修会とし、月1回会議を開催。身体拘束が必要でない事を認識し、安全・快適に過ごすにはどうしたら良いかを話し合っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に1回会議を行い、それについて学ぶ時間を設け、自分たちならどう対処するか話し合い、防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修の中で、その制度についての学ぶ機会がありました。今後はその知識を元に活用できるよう努めていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規入居の際は、不安や疑問やらを本人様やご家族へ聞き、十分に説明した上で了解を得ております。その他の時でも、不安や疑問点があれば、相談に応じるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望を気兼ねなく話してもらい、関係職員に報告して話し合いの場を設けて、ホーム運営に反映できるように努めています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案は迅速に対応し、取り入れるようにしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ゆとりがある勤務形態の提供に努めています。また、年に一度慰安旅行があり、職員のストレス発散できるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を定期的に行って、ケアへの知識を高める為に努めています。また、外部の研修情報を提供し、働きながらトレーニングできるよう努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設間での相互研修へ参加したり、他事業所とも連絡を取り合ったり、サービスの向上に繋がるように取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に直接本人様へホームを見学して頂き、要望を取り入れる事で、安心して頂けるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人様同様に見学された際、詳しくお話を聞く事で、何を要求されているかを把握して、情報収集に努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族から情報を頂くことで、入所される方に合ったサービスが受けられるように、対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的に介護支援するという考えではなく、共に暮らし、生活している家族のような関係を大切にしています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設に預けているだけという関係にならないよう、ホームでの行事などにも参加して頂けるような、お知らせや声をかけたりしています。外出・外泊の支援です。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚の皆様や、友人・知人の訪問など、ご希望される際には連絡を取るなど積極的に働きかけています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の方々が孤立してしまう事がないように、食事以外の時間も皆様と楽しく会話など交流が出来るような機会を作っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームの利用が終了されても、関係を断ち切らないように、メッセージカード(よせ書き)を送ったり、気軽な相談をして頂けるように努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様お一人お一人の今までの暮らしや、好みなどを聞いて、本人様の意向に沿えるように努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活環境などをお聞きして、その方に合ったサービスを検討し、提供に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェックを行っており、心身状態などの情報交換し、現状把握に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様やご家族の希望など取り入れながら、職員間で話し合い、意見を交換し現状に合った介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子やら申し送り事項などを個人記録に毎日毎回記入して、職員での介護計画の見直しを図っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・ご家族の状況に応じて、病院の受診付き添いや、チョツとしたお出掛けの時の見守りなど、柔軟な対応を心がけております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事への参加、それに向けての活動など、日々の活力になり楽しく暮らせるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な病院受診、体調に変化があれば24時間いつでも適切な医療を受けられるように支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員が毎日の健康状態に気を配り、体調変化があれば看護職に相談を行い、どのようにすれば良いかの指示を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早めの治療と退院が出来るように、病院と相談と病状の指示を受けながら、ホーム生活と治療が進められるように支援しております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の場合は、早い段階から病院から治療方針を家族へ医者から説明を行い、今後の終末期の歩み方をホームと相談して取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故の発生に備えて、その研修や緊急時対応の勉強会へ参加して、とっさの対応が出来るように努力しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回行っている昼夜想定での避難訓練の他に、内部研修での災害に対する対応、自治会での防災学習への参加をしたり、災害に対する意識を高めています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬う気持ちを持ち、明るく丁寧に接するようにしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、入居者の方が思いや希望を出せるような場であるよう、心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の方の希望に沿うよう、職員の都合を押し付けず、その方のペースで日々暮らせるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の方の好みに合わせ、その方らしい身だしなみや、オシャレができるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立づくりでは、入居者の希望を取り入れたり、一人ひとりの状態に合わせた食事提供をしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取の記録を取り、栄養バランスや水分量が確保できるよう、支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、歯磨き出来る方は行って頂き、難しい方には、職員が口腔ケアを行い、お口の清潔を保つようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの失敗を防げるよう、定期的に言葉かけや誘導をして、昼間のオムツ使用を減らしたり、自立に向けた支援を行います。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常生活動作や水分補給など、便秘の予防に働きかけたり、便秘の改善の見られない方には、医者への受診と相談で薬での改善を行ったり、個々に応じた対応をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調を観察し、入浴が楽しめるよう、時間やタイミングを見ながら要望に応じています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜に眠れない事がないよう、日中は昼寝のし過ぎに注意、昼間の生活活動で体を活発に働かせて、夜にグッスリ眠れるように心掛けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効用を把握して、体調の変化に合わせて医者と相談して、服薬の支援に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様の持たれておられる能力を最大限に引き出し、レクなど楽しみごとの提供や、日々のホーム生活が充実するように努めております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に応じれるよう、職員が付き添ったり、ご家族が協力して頂いたりして支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の方々が生活されており、お金を持つことにより困惑の原因にもなりかねない為、多くの方はご家族に管理して頂いています。お金の管理が可能な方には、所持して頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族との関係が途切れる事がないように、電話や手紙の支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間であるホールは、季節を感じて頂ける飾りや、貼り物で明るく居心地の良く過ごせる工夫をしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになりたい時の居室、ワイワイガヤガヤ楽しく過ごせるホールがあり、楽しく過ごせるように工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅より使い慣れた品物を持ち込んで頂き、本人様には違和感が無い毎日を過ごせるように工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室や廊下には手すりがあり、各居室にはトイレを設置しています。床面は段差が無く、移動がしやすいようになっております。		